

売れる米づくり技術情報No.4

～なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい～

令和6年6月20日
JAえちご中越
なんかん南営農センター

早生品種の穂肥時期が近づいてきました。幼穂長を確認して、適期に適量の穂肥を施用しましょう！

1. 6月19日現在の水稻生育状況（なんかん南地区調査圃場平均：長岡地区指標値を使用）

- コシヒカリは指標に比べ、草丈やや長い、茎数並、葉数やや多、葉色並の状況。
- こしいぶきは指標に比べ、草丈並、茎数並、葉数やや多、葉色並の状況。
- 田植時期、圃場により生育差が大きい。（コシヒカリ最多数値 草丈：49.6 cm 茎数：540 本/m²）

品種	草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
	本年	前年	指標	本年	前年	指標	本年	前年	指標	本年	前年	指標
コシヒカリ	43.4	45	37	422	374	400	8.9	8.8	8.2	40.6	39.3	41.0
こしいぶき	39.3	44	40	453	414	430	9.3	9.2	8.7	41.9	42.8	42.0

2. 幼穂形成期・出穂期予想と穂肥施用のめやす

- 連休植え、6月20日現在の予想です。出穂予想は今後の気象により変動することがあります。
- 1回目穂肥は遅れずに施用し、基肥一発肥料でも、葉色の低下がみられる場合は追肥を実施しましょう。

品種	幼穂形成期	出穂期	穂肥 1回目			穂肥 2回目		
			施用時期	出穂前日数	窒素量 (kg/10a)	施用時期	出穂前日数	窒素量 (kg/10a)
ゆきん子舞	6/28	7/21	6/26～6/28	25～23	3.0	7/7	14	2.0
つきあかり	6/25	7/18	6/23～6/25	25～23	2.5	7/4	14	2.5
こしいぶき	6/30	7/23	6/30	23	1.0	7/9	14	1.5
新潟次郎	6/25	7/17	6/22～6/24	25～23	3.0	7/1	14	3.0
わたぼうし	6/24	7/18	6/26～6/28	22～20	1.0～1.5	7/6～7/8	12～10	1.0～1.5

穂肥を多量に施用したり、時期が早すぎたりすると、籾数過剰や登熟歩合の低下等が起こるため、適期に適量を施用しましょう。

コシヒカリ・こがねもちの幼穂形成期、出穂期については次号でお伝えします

- ◎品種・圃場ごとに生育差があるので **必ず幼穂長を確認して** 穂肥の施用時期を判断しましょう。

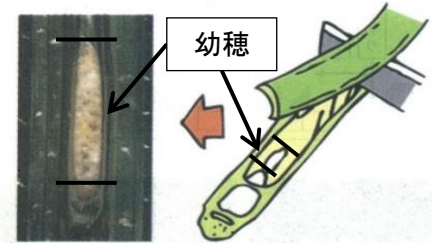
【幼穂長と出穂前日数の関係】

幼穂長(cm)	0.02	0.1	0.13	0.2	0.5～1.0	4.0～6.0
出穂前日数	30	24	23	20	18	12

こしいぶき穂肥1回目のめやす

【幼穂長の測り方】

- ①ほ場内の平均的な生育の稲を3株程度選ぶ。
- ②1株の中で、最も長い茎を株元から引き抜く。
- ③カッター等で茎を縦に割り、幼穂長を確認する。



3. 田面に小ヒビが入るまで中干しを継続しましょう。

- 茎数過多で葉色が濃い圃場や中干しが不十分な圃場は、中干しを継続しましょう。但し、遅くとも出穂期1か月前までに終了しましょう。茎数が少ない圃場や葉色がさめていきている圃場は、弱めの中干しで終了しましょう。
- 中干し終了以降は、間断かん水から徐々に飽水管理へ移行しましょう。根腐れの発生につながるため、長期間にわたる湛水は避けましょう。

4. 葉いもち防除の徹底と、斑点米カメムシ対策をお願いします。

- いもち病多発地、わたぼうし、あきだわら、新之助等のいもち病に弱い品種、多肥栽培を行っている圃場では、圃場を見回っていもち病の早期発見に努め、病斑を見つけ次第防除しましょう。※補植苗の取り残しも確認しましょう。（いもち病を発見したら、「ブラシン（粉剤DL、またはフロアブル）」を散布しましょう）
- カメムシが増えにくい環境を作るために、雑草の種子が結実しない間隔で畦畔や農道等の草刈りを行いましょう。また、刈り取った雑草は放置するとカメムシや病原菌の生息地となるので、圃場から除去しましょう。
- 必要に応じて中後期除草剤を散布し、ノビエ・ホタルイ等、水田内雑草の除草を徹底しましょう。

【お問い合わせ先】 なんかん南営農センター米穀課 0258-61-2903

